



51. ベーハム 「ホロフェルネスの首をもつユディト」

ごあいさつ

1987年4月の開館以来、町田市立国際版画美術館は版画を中心とするユニークな美術館として、国内外のすぐれた版画作品と資料を収集・保存し、版画をテーマとする展覧会を開催してきました。また、初心者から経験者まで幅広い層を対象とした実技講座や、各種の版画制作用具を備えた工房とアトリエを制作の場として一般に開放するなど普及活動も展開し、「見る楽しみ」と「作る楽しみ」を総合的に紹介してまいりました。こうした活動を評価していただき、近年は寄贈作品の点数も増加しています。

本展では2017年度下半期から2018年度上半期に新たに当館に収蔵された873点のなかから、主な作品約80点をご紹介します。当館は今後も、古今東西の版画の歴史が多面的・総合的に理解できる質の高いコレクションの形成を目指して、継続して収集活動につとめていきたいと考えています。

「2018年度 新収蔵作品展—Present for You」とは、当館に収蔵される作品が、貴重な文化遺産として大切に保管され、未来へと伝えるべきものであり、同時に市民ひとりひとりから未来へのプレゼントでもあるという気持ちをこめたタイトルです。本展を通じて、当館の活動がさまざまな人々によって支えられ、市民ひとりひとりも美術館のサポーターであるということをご理解いただければ幸いです。

最後になりましたが、貴重な作品や資料をご寄贈くださいました皆様、収集活動にご協力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。

2019年1月

町田市立国際版画美術館
館長 村田 哲朗

2018年度 新収蔵作品展

Present for you

わたしからあなたへ／みんなから未来へ

2019年1月5日(土)～2月17日(日)

町田市立国際版画美術館 企画展示室2

◇凡例

作家・作品データは展示順に掲載しています。

各データは次の順に記載しています。

作者名、生没年、解説、題名、制作年、技法、寸法(cm)

作家名(ローマ字)については、姓を大文字で表記しています。

大判は浮世絵の寸法を表す規格で、約39×26.5cmです。

1～5

二代歌川広重

UTAGAWA Hiroshige II

文政 9(1826)-明治 2(1869)

『忠臣蔵』より

安政 2 年(1855)

大判錦絵

1. 大序 4. 十段目

2. 七段目 5. 大尾

3. 八段目

「忠臣蔵」の各場面を一枚ずつに描いたシリーズ。作者は一幽斎重宣と名乗っていた時期の二代歌川広重です。

それぞれの画面の周囲を囲むように、雷紋と大石家の家紋である二つ巴が配されています。こうした形式の忠臣蔵物の浮世絵は、二代広重の師である初代歌川広重をはじめ、葛飾北斎、三代歌川豊国ら、様々な絵師によって江戸中期以降、さかんに制作されました。

「大序」は、鶴岡八幡宮で対立する高師直と桃井若狭之助、そして塩冶判官の妻顔世。「七段目」は、祇園一力茶屋にて、縁先で顔世からの書状を読む大星由良之助と、それを盗み読む顔世の腰元お軽と斧九太夫。「大尾」は、討ち入り後の浪士たちが、主君である判官の墓前にて報告をする場面が描かれています。

6

文部省製本所発行

Published by the Ministry of Education

争闘を好む童男

明治 6 年(1873)以降

大判錦絵

明治 6、7 年(1873、4)頃に刊行され、現在「文部省発行教育錦絵」と称される全 104 点の教育錦絵の一図です。

けんかをして友人に怪我をさせてしまった男児と、それを咎める警官。背景には室内に置かれた洋書とランプが描かれています。子どもたちに対して争いを悪い行いとして咎める一方で、さりげなく学問を奨励する内容ともなっています。

「文部省発行教育錦絵」のなかには、こうした道徳的テーマを描いた作例が 11 点あり、「教訓道徳図」とも称されます。いずれも作者は不詳ですが、学校教育あるいは家庭教育の場で、教材として用いられたと考えられています。

1～6

貝原紘一氏より寄贈

7～22

中城正堯コレクション

美術史研究者の中城氏により収集されたコレクション。昨年度に引き続き今年度は 37 点を受贈し、今回はそのなかから 16 点を展示します。

本コレクションの特徴は、吉祥画題を描いた版画が多数含まれていることです。なかでも中城氏は、豊作や商売繁昌、勤儉貯蓄を表す「金のなる木」の図像が、多数の浮世絵、引札、民間版画に見出せることに注目し、収集しています。もとは中国版画にみられる「揺銭樹」のモチーフから発展したもので、日本でも江戸後期に流行しました。

そのほか、大黒や恵比寿など福德をもたらす福神や、魔除けに効く鐘馗、

夫婦和合や子孫繁栄の神である和合神など、新春にもふさわしいめでたい画題が集められています。

7

勝川春扇

KATSUKAWA Shunsen

生没年不詳

関羽

文化-文政期(1804-29)頃

大判錦絵 縦二枚続

8

菊川英山

KIKUKAWA Eizan

天明 7(1787)-慶応 3(1867)

万事吉兆図

文化 9 年(1812)

大判錦絵 縦二枚続

9

宝車

文化-文政期(1804-29)頃

細判合羽摺

10

溪斎英泉

KEISAI Eisen

寛政 3(1791)-嘉永元(1848)

恵比寿大黒大小暦

江戸後期(安政 2 年(1855)の暦)

大判錦絵

| | | |
|---|---|---|
| <p>11 溪齋英泉 KEISAI Eisen 金之成木 天保 14-弘化 4 年(1843-47)頃 大判錦絵豎二枚続</p> | <p>16 三代歌川豊国 UTAGAWA Toyokuni III 天明 6(1786)-元治元(1865) 天地人長久双六 弘化期(1844-47)頃 65.9×45.7 木版多色摺</p> | <p>20 帝釈天像 19 世紀 50.2×20 木版墨摺</p> |
| <p>12 伸齋英松 SHINSAI Eisho 生没年不詳 志やうぢ木 天保 14-弘化 4 年(1843-47)頃 大判錦絵</p> | <p>17 二代歌川国輝 UTAGAWA Kuniteru II 天保元(1830)-明治 7(1874) 大日本開闢国恩之解 大国主命 西王母之由来 明治 4 年(1871) 大判錦絵三枚続</p> | <p>21 摩訶羅大黒天神 制作年不詳 31×25.2 木版墨摺</p> <p>22 大黒天像 制作年不詳 40.1×24.3 木版墨摺</p> |
| <p>13 引札(砂糖干物塩綿石炭養蚕道具) 明治期 26.7×39 石版</p> | <p>18 楊洲周延 YOSHU Chikanobu 天保 9(1838)-大正元(1912) 金性二月一日うけニ入 明治 12 年(1879) 大判錦絵</p> | <p>7~22 中城正堯氏より寄贈</p> |
| <p>14 かねのなる木の図 制作年不詳 95×32 木版墨摺</p> | <p>19 歌川芳藤 UTAGAWA Yoshifuji 文政 11(1828)-明治 20(1887) 鐘馗づくし 明治 16 年(1883) 大判錦絵</p> | <p>23~29 鈴木 賢二 SUZUKI Kenji 明治 39(1906)-昭和 62(1987) 栃木県下都賀郡栃木町(現・栃木市) 生まれ。1925 年に東京美術学校彫刻 科に入学するもプロレタリア美術運動 に傾倒し 1929 年に退学、後にプロレタ リア美術研究所に入ります。1946 年に 久保貞次郎、新居広治らと日本美術 会北関東支部を創立し、1949 年に日 本版画運動協会を設立。版画の普及 と社会運動を目指した「版画運動」を 通して国内のネットワークを築き、国際 交流を進めるなど精力的な活動を続け ました。</p> |

展示作品は苦しい暮らしのなかでも暖かな家族を描いた大型木版画と、茨城県の高萩炭鉱に取材した作品で、社会に対する強い関心を感じとれます。1937年に西田武雄の日本エッチング研究所を栃木に招いた後に制作した貴重な銅版画作品と原版も収蔵されました。

23. あぶれた日(親と子)

昭和 35 年(1960)

97×59 木版

24. 孫

昭和 35 年(1960)頃

64×32.5 木版

25. 高萩 炭鉱の町

昭和 23 年(1948)

33×23.5 木版

26. 仲間の死 高萩炭鉱事故

昭和 38 年(1963)

30.2×45.5 木版

27. 妻 よし

昭和 14 年(1939)頃

15.4×11.8 エッチング

28. エッチング原版(男性肖像)

昭和 12 年(1937)頃

15×12 銅版

29. エッチング原版(母親と二人の子)

昭和 12 年(1937)頃

14×12 銅版

23～29

鈴木解子氏より寄贈

30～36

古茂田 守介

KOMODA Morisuke

大正 7(1918)-昭和 35(1960)

古茂田 美津子

KOMODA Mitsuko

大正 10(1921)-平成 19(2007)

古茂田 杏子

KOMODA Kyoko

昭和 21(1946)生まれ

古茂田守介、美津子夫妻と長女・杏子の画家一家の作品です。

古茂田守介は愛媛県に生まれ、上京後に新制作派協会の猪熊弦一郎、脇田和らに師事。1957年頃から駒井哲郎と交友し銅版画を習いましたが、1960年に42歳の若さで亡くなります。火災により作品の多くが失われ、寄贈作品は焼失を免れた貴重なものです。

古茂田美津子は東京府に生まれ、岡田謙三に師事し油彩画を描きました。結婚後は制作を中断しましたが、夫の死後に活動を再開し、新制作展で発表。1990年から守介作品修復への助言や顕彰を行いました。

古茂田杏子は東京都に生まれ、1990年から蒲池清爾に師事し銅版画を始めます。身近な出来事を題材に、浮世絵を思わせる人物造形で退廃的でエロス漂う作品を制作する作家です。

古茂田 守介

KOMODA Morisuke

大正 7(1918)-昭和 35(1960)

30. 少女

昭和 24 年(1949) 53×41 油彩

31. 月と木

昭和 34 年(1959)

18.1×14.8 エッチング

32. (題不詳)

昭和 34 年頃(1959 頃)

11×10 エッチング、アクアチント

33

古茂田 美津子

KOMODA Mitsuko

大正 10(1921)-平成 19(2007)

サーカス

昭和 50 年(1975)頃

27.3×19 油彩

古茂田 杏子

KOMODA Kyoko

昭和 21(1946)生まれ

34. こっちの水は甘いぞ、あっちの水は苦いぞ

平成 9 年(1997)

19.5×29.5

エッチング、アクアチント

35. 又、やられた

平成 10 年(1998)

23.8×36

エッチング、アクアチント

36. 三人組

平成 19 年(2007)

19.8×7.9 エッチング

30～36

川妻さち子氏より寄贈

37

行元昭子

YUKIMOTO Akiko

昭和 3(1928)生まれ

岡山県出身、町田市内在住。女子美術大学洋画科卒業、武蔵野美術学園版画研究科修了。1964 年、朱葉会へ油彩作品を初出品、1970 年には同会会員となり、1988 年に東京都知事賞を受賞。

武蔵野美術学園で銅版画技法を修得、1979 年より、日本版画協会と春陽会版画部出品、春陽会版画部会員となりました。中華民国国際版画ビエンナーレ、クラクフ国際版画ビエンナーレなど国際展にも参加しました。

森の営み

平成 5 年(1993)

60×45 エッチング、アクアチント

作者より寄贈

38～41

横尾忠則

YOKOO Tadanori

昭和 11(1936)生まれ

横尾忠則は絵画、版画、デザイン、小説、書評、舞台などさまざまな分野で縦横無尽に創作活動を展開させているアーティストです。日本はもちろん、アメリカやヨーロッパ、アジア諸都市でも大規模な個展が開催され、国際的に高く評価されています。版画制作は 1960 年代からコンスタントに取り組んでいます。その制作は、デザイナー時

代(1950 年代後半～1980 年頃)は「デザインのはみ出し部分」、画家として活動を開始してから(1980 年頃から現在)は「絵画的表現の一変種」という姿勢でおこなわれてきました。今回の出品作品は、当館が 2017 年に、「版画」の枠を超えた横尾の作品群を「HANGA」と称して開催した「横尾忠則 HANGA JUNGLE」展に出品した新作版画です。イメージは、出身地である兵庫県西脇市の物産である反物を輸出する際に、輸出国のイメージをデザインして貼ったラベルの絵柄から展開したものだといえます。異質なイメージを組み合わせているのは、シュルレアリスムのデペイズマン(人を異なった生活環境に置くこと)の手法を想起させます。

38. KEY BEAUT.Y.

平成 29 年(2017)

92×67.1 スクリーンプリント

39. ME MELANCHOLIA ME

平成 29 年(2017)

92×67.3 スクリーンプリント

40. 女性と紳士靴

平成 29 年(2017)

92×68.1 スクリーンプリント

41. Let's eat

平成 29 年(2017)

92×71.6 スクリーンプリント

38～40 購入

41 作者より寄贈

42

日和崎尊夫

HIWASAKI Takao

昭和 16(1941)-平成 4(1992)

出品の冊子作品は、戦後日本の木口木版画の先駆者であった日和崎尊夫を中心に結成されたグループ、「鑿の会」の最初の版画集です。その序文には、木口木版画を制作する理由として、この技法の持つ抵抗感が現代に生きる我々一人ひとりの自我の検証にきわめて有効であると記されています。このグループから、柄澤齊(からさわ・ひとし)や小林敬生(こばやし・けいせい)といった現代活躍する木口木版画家が現れています。グループの核であった日和崎は、インド哲学のひとつである、きわめて長い小宇宙論的な時間の単位を示す「カルパ(劫)」をテーマに、闇のなかに無数の植物的形象を白く浮かび上がらせる木口木版画を制作した作家でした。

『鑿』創刊号 薔薇 I

昭和 54 年(1979)

25.7×18.5(冊子)

木口木版

山岸一雄氏より寄贈

43～45

箕輪香名子

MINOWA Kanako

昭和 23(1948)生まれ

東京都出身。1971年に女子美術大学芸術学部絵画科洋画専攻を卒業。1998年に東京藝術大学で行われた夏季公開講座で版画技法を受講し、町田市立国際版画美術館の版画工房を利用して制作を行ってきました。2007年に春陽会の会友、2011年より春陽会版画部会員として活動しています。

No.43は、2007年「第84回春陽展」奨励賞受賞作品、またNo.45は「第48回神奈川県美術展」で神奈川県立近代美術館賞を受賞した作品。

写真製版をもちいてスクリーンを制作し、さまざまなトーンとテクスチャーを色面に刷り重ねる手法が特徴的です。自然現象からイメージを拾い上げた形体と独特な色彩構成により、自らの芸術世界を展開しています。

43. Suggestion '07

平成 19年(2007)

84×55 スクリーンプリント

44. Puffy Stage Series I

平成 20年(2008)

50.1×79.3 スクリーンプリント

45. treasure hunting 2012-1

平成 24年(2012)

79.2×50.2 スクリーンプリント

43～45

作者より寄贈

46～47

伊坂 義夫

ISAKA Yoshio

昭和 25(1950)生まれ

東京都に生まれ、1969年に本郷高校デザイン科を卒業後、1970年頃から作品発表を開始しました。1981年に岡本信次郎との合作で『少年戦記』を発表。その後は主に切手や封筒など収集した使用済の郵便物のコラージュをオフセット印刷によって拡大した版画作品を制作しています。『ジェニエ・ワンダーランド』シリーズはアンリ・ルソー《ジェニエ爺さんの馬車》を引用しています。作品に描かれた登場人物が繰り広げる会話や物語を作家が想像して展開したシリーズです。

『ジェニエ・ワンダーランド』より

平成 28年(2016) オフセット

46. アカシックレコード 103×73

47. 宙乗り 73×51.5

46～47

作者より寄贈

48

栗田政裕

KURITA Masahiro

昭和 27(1952)生まれ

茨城県出身の版画家。1975年に東海大学教養学部芸術学科卒業、翌年に創形美術学校版画科研究科修了。創形美術学校在学時に柄澤齊から木口木版の手ほどきを受けました。1977年

に結成された木口木版画家グループ「鑿の会」の創設メンバーのひとりです。

出品作は、美術研究者・詩人の石黒敦彦(1952年生まれ)との詩画集。「玻璃」とは隕石由来の天然ガラスのこと。石黒が雪の中で見つけた煌めく玻璃隕石と、栗田が目にした満天の星空という二人の類似体験が制作のきっかけとなりました。ビュランの精緻な刻線による表現はもちろんのこと、雁皮刷りに箔を裏貼りすることでモチーフの物質感が強められています。

詩画集『玻璃隕石の降る夜』より

詩:石黒敦彦

平成 29年(2017)刊

26.5×21(紙:二折片面)

木口木版、コラージュ、雁皮刷りに裏箔

栗田政裕氏・石黒敦彦氏より寄贈

49

ながさわ たかひろ

NAGASAWA Takahiro

昭和 47(1972)生まれ

「応援すること」をコンセプトに描く、異色の現代アーティストです。1972年山形県生まれで、武蔵野美術大学を修了。当初は銅版画によるミニマルな表現を試みましたが、次第に制作プロセス自体を作品化するスタイルに移行。2009年から8年間は応援するプロ野球チームの全試合を1年間描き続ける『プロ野球画報』シリーズを手がけます。その第1作目にあたる本作は、2009年の東北楽天ゴールデンイーグルスの全試合を描き、翌年第13回岡本太郎

現代芸術賞で特別賞を受賞しました。
当時楽天を率いた野村克也監督への
応援の気持ちを込めて、球団が初め
てクライマックスシリーズに進出すると、
監督の背番号「19」と同じ、19点組と番
外1枚の構成をもつ版画集となるよう
制作されています。

『プロ野球画報』

平成21年(2009)

54×39

エッチング、スクリーンプリント

作者より寄贈

50～57

西洋古版画コレクション

16世紀以降の西洋古版画を中心とし
た全47点のコレクション。時代と地域
だけでなく、版画技法も多岐にわたっ
ています。今回は7点を展示します。

Nos.50-51は、「小型の版画家」と呼
ばれるドイツの版画家ゼバルト・ベー
ハムとゲオルク・ペンツによるもの。小
さな画面に残酷かつ妖艶な場面が刻ま
れています。

オランダの画家モレールスが原画を
手がけたNo.54は、キアロスクーロと呼
ばれる西洋の多色刷り木版画。ペンに
よる素描を模した表現です。

ボヘミア出身のヴェンツェル・ホラー
は、イギリスを中心に活動した版画家。
No.55では、エッチングの細かい線描
によって柔らかな毛の質感・量感をう
まく表しています。

他の作品も技法の特徴を比べなが
らご覧ください。

50

ゼバルト・ベーハム

Sebald BEHAM

1500-1550

ホロフェルネスの首をもつユディット

1531年頃

11.5×7.3 エングレーヴィング

51

ゲオルク・ペンツ

Georg PENCZ

1510-1550

ペルシア王キュロスの首を血の中
に浸すスキュタイ女王トミュリス

1539年頃

10.8×6.8(イメージ)

エングレーヴィング

52

骰子の版画家

Master of the Die

1530-60 活動

聖セバスティアヌスの殉教

1530-60年頃

20.3×12.8(イメージ)

エングレーヴィング

53

ヨスト・アマン

Jost AMMAN

1539-1619

楽園のアダムとエヴァ

16世紀後半

27.6×18.8 木版

54

パウルス・モレールス(原画)

Paulus MOREELSE (after)

1571-1638

クピドと踊る二人の婦人

1612年頃

23.2×28.4

キアロスクーロ(二版:黒、グレー)

55

ヴェンツェル・ホラー

Wenzel HOLLAR

1607-1677

死んだモグラ

1646年

7×14 エッチング

56

ジャン=オノレ・フラゴナール(版刻)

Jean-Honore FRAGONARD (engraver)

1732-1806

マッティア・プレティ(原画)

Mattia PRETI (after)

1613-1699

アレクサンドリアの聖カタリナ

1763/64年

14.2×18.7 エッチング

57

ジャン=クロード・リシャール・ド・

サン=ノン(版刻)

Jean-Claude Richard de SAINT-

NON (engraver)

1727-1791

ジャン=オノレ・フラゴナール(原画)

Jean-Honore FRAGONARD (after)

1732-1806

マッティア・プレティ(原画)

Mattia PRETI (after) 1613-1699

アレクサンドリアの聖カタリナ

聖カタリナの神秘の婚姻

1773年

各 14.2×18.7 ※一版に二画面

エッチング、アクアチント

50～57

志久内陽子氏より寄贈

58～60

フランツ・フォン・バイロス

Franz von BAYROS

1866-1924

ウィーンとミュンヘンで活動したクロアチア出身の画家。ロココ美術の研究を通じて、妖艶かつ退廃的な作風を確立し、蔵書票画家・挿絵画家として人気を博しました。彼が挿絵を手がけた書籍や蔵書票を中心としたコレクションから、3点を紹介します。

出品した書籍の挿絵や蔵書票は写真印刷ですが、いずれも 300～1,000部程度の限定出版。美しい装丁がほどこされたり、挿絵が和紙に印刷されたりしています(No.58)。さらにバイロ

スの直筆署名が入った限定版も刊行されてきました(No. 60)。

No.59 の作品は、イタリアの詩聖ダンテ(1265-1321)没後 600 年にあたる 1921 年を記念し、描かれた水彩画を原画とするもの。敬虔かつ神秘的な雰囲気なたたえたバイロスの代表作のひとつです。

58. オットー・ユリウス・ビーアバウム著

『パオの美しい娘』

1910 年刊

32×23.5(書籍) 写真印刷

59. ダンテ『神曲』より

1921 年刊

19×16(紙) 写真印刷

60. ハンス・ルドルフ・バルチュ著

『モーツァルトの謝肉祭』

1922 年刊

25.5×19.5(書籍) 写真印刷

58～60

西野裕介氏より寄贈

町田市立国際版画美術館

2019年1月5日発行

〒194-0013

東京都町田市原町田 4-28-1

Tel. 042-726-2771

<http://hanga-museum.jp/>